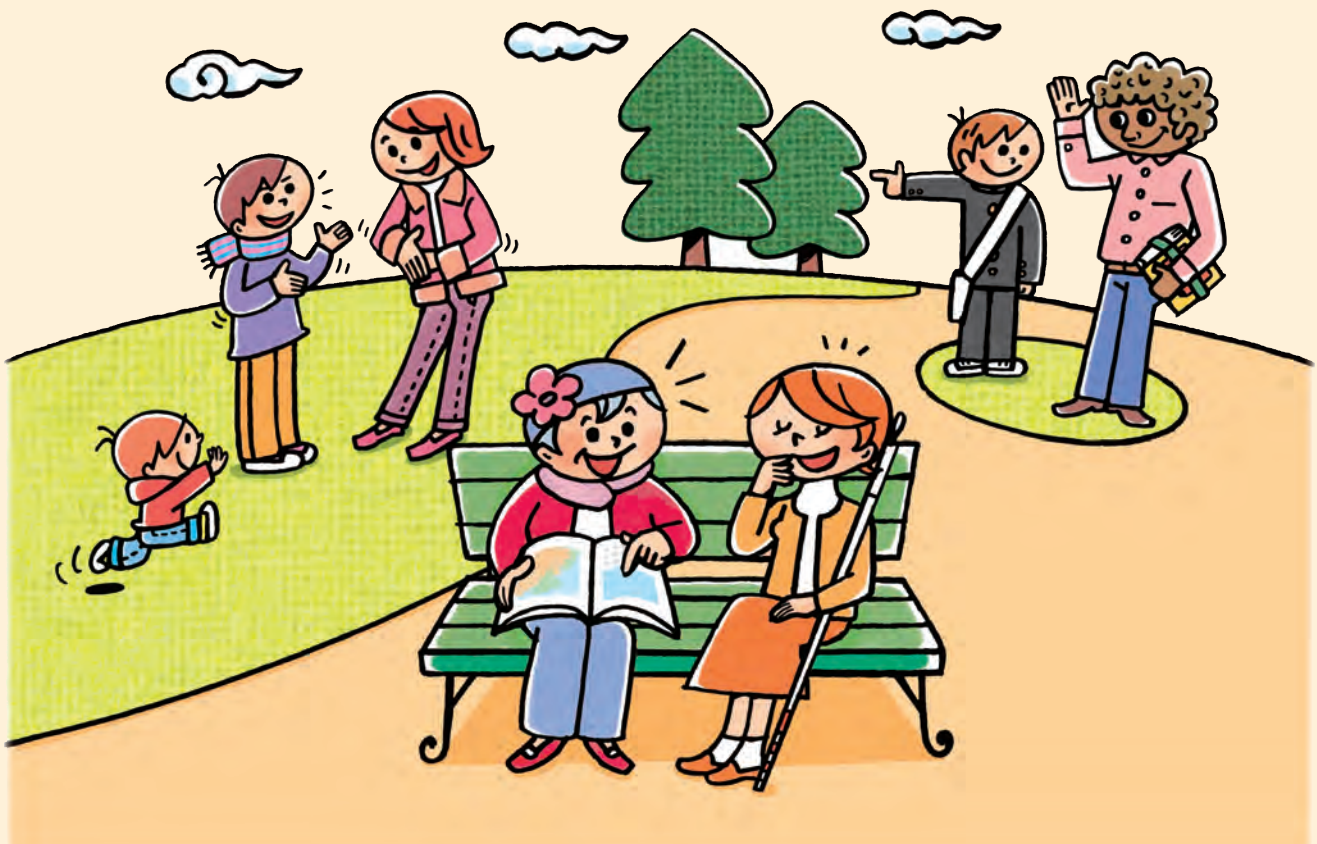


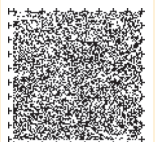
つた 伝えあうことから始めよう！

じょうほう
情報バリアフリーハンドブック

かい いてい ばん
改訂版



まちだし まちだし ふくし すいしんきょうぎ かい
町田市・町田市福祉のまちづくり推進協議会



ハンドブックについて

●作成の経緯

高齢者、障がい者をはじめ、すべての市民が自立して地域で生活できる社会の実現には、『わかりやすく情報を伝えあうこと』が重要です。

町田市では、視覚・聴覚障がい者、高齢者とその支援者の方々の協力で、『情報のバリアフリー』を進めています。このハンドブックはその普及・啓発のために作成しました。

●ハンドブック作成の目的と活用方法

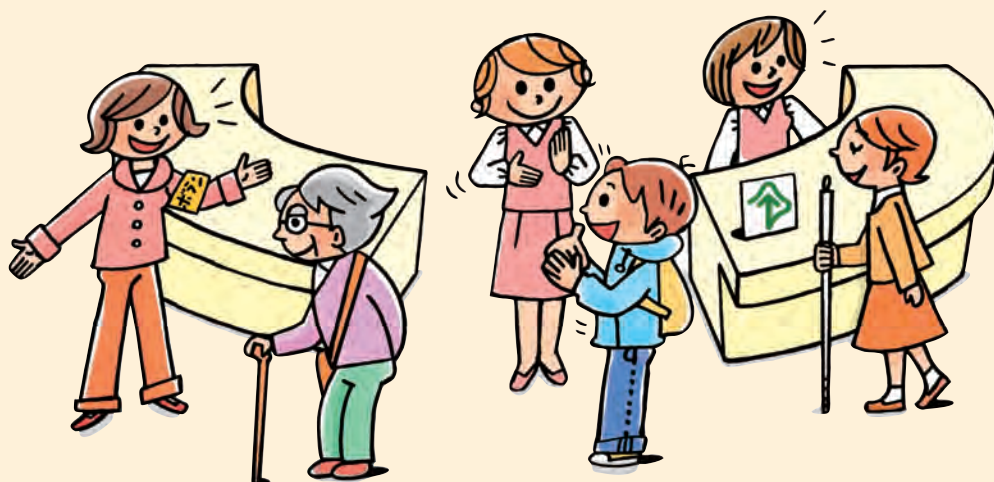
ハンドブックの目的は、『視覚障がい者』、『聴覚障がい者』、『高齢者』などが情報を入手するための、現状の方法、問題点を知ってもらうことです。

さらに、課題改善の方法や工夫を示すことで、サービスを提供する側と受ける側を始め、市民みなで『情報のバリアフリー』を進めましょう。

『情報のバリアフリーからユニバーサルデザイン』へ！！

『情報のバリアフリー』は、視覚・聴覚障がい者や高齢者などに対して、本人に合った手段・方法で情報を伝えることです。

さらに、一つの仕組みで伝えられない場合は、人的対応を含めたバリアフリー対応が必要です。その際、幾つかの手段・方法を工夫して、すべての人に伝わる仕組みにすることを『情報のユニバーサルデザイン』と言います。



情報を伝えやすくするための『3つの柱』

1 だれにでもわかりやすく情報が伝わり、市との連絡・相談・手続きができるようにしていきます。



ファックス ばんごう か
FAX 番号が書いてあるから申込みできるなあ！！

たとえば…

- 手話・要約筆記（*注）、音訳・点訳、FAX・メール、大活字等の多様な提供手段の活用
- 福祉に関する総合的な窓口の設置

2 視覚・聴覚障がい者、高齢者に対するパソコン等の技術習得の支援を進めます。

おんせい よみ あ か のう
音声で読上げが可能なの
かあ！これで、自宅の
パソコンで情報のやり取り
ができるわ！



たとえば…

- パソコン、携帯電話、活字文書読上げ装置・シーディーなど、CD等の利用促進・研修等

3 障がい者、高齢者などの立場を理解した接遇の研修・実践を進めます。

ない か
内科はこちらです。
ご案内します。



はじ めて き びょういん
初めて来た病院でも安心だなあ！

たとえば…

- 手話、外国語通訳の職員登録とネームプレートへの表示
- 病院ボランティア等の育成

*注【要約筆記】聴覚障がい者に対し、その場の話の内容を要約して文字で表す通訳のこと。（P12参照）

